

ねむの木

中津市長 奥塚 正典

我が家にエバーフレッシュという観葉植物があります。背丈は2メートル、光を感知するので、朝になると葉を開き、夜になると閉じます。不思議です。普段は明るいグリーンですが、どんどん出てくる新芽は意外にも薄茶色です。ある時、家に来た友人が、こともあろうに色合いから枯れ葉と勘違い、親切にも新芽をすべてきれいにちぎってくれたのは、なんともびっくりした笑い話です。そんな試練にもかかわらず、生命力旺盛で、次から次に芽を出し成長するので剪定もしばしば、本当に元気です。時に黄緑色のフワフワした花も咲かせます。

和名を調べると「赤さやねむの木」、ねむの木の一種です。「ねむ」と聞くと葉の開閉の変化が「眠る」を連想させて人間っぽくなり、「おはよう」や「おやすみ」の言葉をかけられているような気がします。加えて、水が不足すると葉を閉じようと自己主張もします。子どものようです。

ねむの木といえば、「ねむの木の子守歌」を思い出します。美智子上皇后陛下が高校時代に作詞されたものにその後、曲がつけられたそうです。中学生の頃、女優吉永小百合さんが「ねんねのねむの木 眠りの木」とやさしく歌っているのを聞いた記憶があります。



エバーフレッシュ

植物は、人間にいろいろなことを与え教えてくれます。人の心を和ませますし、食料として支えてくれます。二酸化炭素を吸収してきれいな空気も作ってくれます。さらに、時間に追われ忙しく過ごしている自分に、様々なことを気付かせます。何より季節や時の変化を伝え、日常生活で起こる諸事への思いを深めさせ、内省的に自己発見をさせる力を持っています。それも静かに淡々と。

お父さん、お母さん、今宵は「ねむの木の子守歌」を聴きながら、愛しいお子さんに添い寝をしてみたいかがですか。